2.5 次元ミュージカル活性化の諸相〜演目と作曲家の多元性に着眼して

Concerning the various aspects of lively situation in the 2.5 dimensional musicals – the knowable information about the music through the recent works and their composers

増 山 賢 治

MASUYAMA Kenji

This paper is a general survey of the recent works and their music composers of the 2.5 dimensional musicals, and the conclusions are as follows.

Besides the most popular title like the Musical"the Prince of Tennis", the characteristic words, which are added before (sometimes after) of the titles, especially recently produced the new-type naming, like CHO-KAGEKI(Super-Opera) SAIYUUKI-KEGEKIDEN GAKURAN KAGEKI e.t.c. may be associated with the compositional style peculiar to the 2.5 dimensional musicals.

In the near past, we just could count a small number of the representative composers i.e. Toshihiko SAHASHI, Shoichi TAMA… recently we know not a few new generation composers as the followers, like YOSHIZUMI, Tsuyoshi SAKABE, Sayaka ASAI and many others. And their unique compositional style will make the 2.5 dimensional musicals highly amusing. So we have to consider the relationship between the marked increase of the new titles and the diversity of the compositional style in the 2.5 dimensional musicals.

キーワード：2.5 次元ミュージカル、新しいタイプの演目名、作曲様式の多様化

2.5 dimensional musicals, new type-naming of the title,

diversity of the compositional style

はじめに

本稿は拙稿「日本の創作ミュージカルの新潮流としての 2.5 次元ミュージカルに関する一考察〜その展開とカテゴリー形成をめぐって〜」の続編として、2.5 次元ミュージカルの最近の上演演目とその音楽の作曲家に焦点を当てて書かれたものである。ミュージカル「テニスの王子様」に代表されるアニメ、コミック、ゲームを原作とするオリジナルミュージカルの総称である 2.5 次元ミュージカルは、2.5 次元ミュージカル協会の設立、それに続く専用劇場[1]の開設、海外からのチケット購入システムの導入、新作演目の大幅な増加、そして雑誌など主要メディアでの紹介も活発化する

など、ますます活性化の様相が感じ取れる。そして、ミュージカルの一カテゴリー形成を喚起させるその趨勢から、将来的にはミュージカルおよび大衆芸能の歴史の一ページとして認識される可能性も考えられる。以下、2.5 次元ミュージカルの音楽様式の多元性を解明するための礎を築くことに主眼を置き、現時点で可能な限り、最近の上演演目（初演および再演）の動向とその音楽の作曲家を俯瞰してみる。

既発表の 2.5 次元ミュージカルに関する拙稿で言及したように、2.5 次元ミュージカルの動向を知る上で最も重要なメディアの 1 つとして、それを積極的に報道する雑誌の存在、中でも近年に創刊の数誌は、それ以前のものよりも 2.5 次元ミュージカルをより強力にアピールする姿勢が顕在化している点で注目に値する。そうした状況を踏まえて、本稿ではそれらの雑誌（最近創刊のものを重視）に掲載されている 2.5 次元ミュージカルに関する記事から、新作演目の動向を特に音楽に着目しながら整理し、次にどのような作曲家がその創作に携わっているか、彼らの創作活動、業績の全般を視野に入れつつ概観する。

従来、2.5 次元ミュージカルを積極的に取り上げて来た雑誌には現在、一部廃刊や休刊のものもあるが、ほとんどは不定期ながら刊行を継続している。そして、それら以外で 2.5 次元ミュージカルを取り上げるものが少ないという現状では、その変遷を知るための典拠として依然として一定の重要性を保持していると言える（『スパークル』『キャストサイズ』など)。中でも、近年に創刊された同類の雑誌では、すでに指摘したように「2.5 次元」という語を明記、あるいはそれに関連する内容を多く収録することで自らの性格を特徴づけている点が注目される。例えば『学研ムック　オトメディアステミュ（OTOMEDIA STAGE & MUSICAL)』（学研パブリッシング）の表紙には書名のサブタイトル風に「2.5 次元舞台＆ミュージカル BOOK」と表記されている。同じように『ステージ・パッシュ！Stage PASH!』（主婦と生活社）でも「2.5 次元エンタテインメントマガジン」の一言を掲げ、廣済堂ベストムック『W!』（廣済堂出版、2015 年 8 月 1 日）の 304 号（vol.6）では巻頭 SPECIAL「加速する！　2.5 次元ミュージカル」として特集が組まれている。さらに KADOKAWA MOOK No.573『別冊 Spoon.2Di Actors vol.1（別冊 spoon. Vol.64)』（株式会社プレビジョン、2015 年 2 月 18 日）は、同社が刊行している『別冊 spoon.2Di』において「これまで舞台の特集を組んできた中で、読者の要望によって 1 冊まるごと舞台・俳優を特集した企画、刊行されたもの」という創刊の主旨（編集後記に記載）で述べられているとおり、まさしく 2.5 次元ミュージカルの勢いが反映されたものと言えよう。また、「2.5 次元の世界にディープに迫るミュージカル＆舞台マガジン」というタツミムック『ステージ 2.5 ディーディ　Stage2.5D × D vol.1』（辰巳出版株式会社、平成 27 年 4 月 20 日）は誌名に直接その意図が明記されている。それから、「次の STAGE を席巻する ACTOR&ARTIST ヴィジュアル Magazine」として上記とほぼ同期に創刊された MS ムック『NEXT vol.1』（株式会社メディアソフト、2015 年 5 月 1 日）は COVER SPECIAL で「ロック☆オペラ『サイケデリック・ペイン』」を大きく取り上げている。その他、直近で最も注目すべきなのは『ベストステージ・プラス BEST STAGE PLUS vol.1』（音楽と人、2015 年 12 月 1 日）で、掲載内容を 2.5 次元ミュージカルに特化して、同じ出版社による『ベストステージ』から分離した印象を受ける。

当然ながら、ネット上における 2.5 次元ミュージカルの情報が相当に増加しており、また雑誌によっては、ネットも併用しているもの（Ex.「キャストサイズチャンネル」）もあるが、その具体的状況については後日の課題とする。このように 2.5 次元ミュージカルは、上記以外にも『日経エンタテイメント』、『カンフェティ』などといった一般の芸能情報誌、文芸雑誌での紹介も徐々に増え、注目度が上昇している。

しかしながら、その学術的な研究は様々な点で未着手であり、特に音楽面に関してはほとんど皆無の状態といって良いだろう。そういう意味で本稿が 2.5 次元ミュージカルの音楽様式の特徴を探るための手立ての一つとして、その作曲家について概観することはそれ全体の研究の進展に一定の意義を有するものと考える。

2　2.5 次元ミュージカルの最新上演演目の動向

本節では、まず新作および最近の再演演目を中心に上演状況を概観し、その中から注目すべき音楽的要素を抽出してみる。アニメ、コミック、ゲームの世界を舞台コンテンツ化した新様式のミュージカルともいうべき 2.5 次元ミュージカルは、演目名の前に「ミュージカル」、「舞台」の二語（恐らく使用頻度が最も高いと思われる）以外に「歌劇」など様々な語句が付されていることから、音楽を含め様々な要素を含んだ舞台作品を広汎に指し示す包括的な用語であり、尚且つそれぞれに何らかの特性が示唆されているものと考えられる。そこで、本稿ではそれを (1) ミュージカルまたはそれに類する音楽的語句、(2) 舞台、に二分し、作曲家について論じるという本稿の主旨に鑑み、今回は「ミュージカル」、「超歌劇」など音楽的要素の重視を示唆する (1) の演目を中心に考察する [2]。以下、本稿の執筆時点で継続的に再演されている演目と新作演目を中心に、再演演目に見られる作曲者の交替による音楽様式の変化を視野に入れつつ、最近の上演演目と公演時期、場所、キャスト・スタッフ（作曲、作詞、演出・脚本、振付を中心に）などとともに全体としてどのような作曲家が創作に関与しているか整理して見る。

まず、ミュージカルという冠名のある演目からシリーズ化されているものを先に、次に新作（初演が予定されているものも含め）の順に見ていく。最新のミュージカル「テニスの王子様」の上演状況は以下の通りである。

【青学 vs. 聖ルドルフ公演】

東京：2015 年 9 月 5 日 ‐ 13 日　TOKYO DOME CITY HALL

宮城：2015 年 9 月 19 日 ‐ 20 日　多賀城市民会館大ホール

愛知：2015 年 9 月 25 日 ‐ 27 日　名古屋文理大学文化フォーラム大ホール

大阪：2015 年 10 月 2 日 ‐ 12 日　大阪メルパルクホール

福岡：2015 年 10 月 23 日 ‐ 25 日　キャナルシティ劇場

東京凱旋：2015 年 10 月 30 日 ‐ 11 月 3 日　TOKYO DOME CITY HALL

【青学 vs. 山吹公演】

東京：2015 年 12 月 24 日～ 27 日　TOKYO DOME CITY HALL

大阪：2015 年 12 月 30 日～ 2016 年 1 月 10 日　大阪メルパルクホール

愛知：2016 年 1 月 15 日～ 17 日　日本特殊陶業市民会館ビレッジホール

福岡：2016 年 1 月 29 日～ 31 日　キャナルシティ劇場

宮城：2016 年 2 月 6 日～ 7 日　多賀城市民会館大ホール

東京凱旋：2016 年 2 月 12 日～ 21 日　TOKYO DOME CITY HALL

坂部剛の加入により佐橋俊彦／坂部剛の二人体制となったサードシーズンの音楽創作は、新曲も加えられて音楽的変化を継続的に求めている姿勢が窺える。実際、筆者が 11 月 3 日の映画館ライブ・ビューイング（写真 1 ）から得た印象として、「Now&Forever」「On My Way」「Jumping Up High Touch!」という既製のアンコール曲 3 曲のコラージュや新曲が披露され、合唱の声部の絡み方がやや複雑化したように感じられた。テニミュの音楽については、作曲者自身がインタビューで語った特徴が参考になるので、以下引用する（「アニメ！アニメ！」2014 年 5 月 31 日 http://animeanime.jp/article/2014/05/31/18894.html）。

「（前略）『テニミュ』で注目すべき点は、まずはテニスのラリー、光（ピンスポット照明）を使ってね。これは、もう発明ですよね。しかも音楽とリンクしてテニスを見せて、ね。それから等身大の“こんなコがいたらイイな”っていう…しかも成長していく物語だし。苦労話としては三ツ矢（雄二）さんの歌詞が毎回、大変です（笑）。ぶっ飛んだ言葉を入れようとしてる、たぶん、ね。♪ You know ♪とか（笑）毎回、格闘しています（笑）『テニミュ』ってもはやひとつのブランドになりましたよね。2.5 次元、海外に持っていくとしたら、向こうの人って音楽そのものを聴いているけど、日本は歌詞を聴いている場合が多い。でも『テニミュ』には可能性がある。これは世界中どこにもないものだし、革命的で演出も斬新だし、イケるんじゃないかな～と思いますね。音楽面はもっとブラッシュ・アップした方がいいと思っていますが」。

ミュージカル「薄桜記」は舞台版も存在する人気演目で、ミュージカルの方は「斎藤一」「沖田総司」「土方歳三」「風間千景」「藤堂平助」「黎明録」など各篇の上演によってシリーズ化されている。作曲はテニミュと同じく、佐橋俊彦が担当しており、各篇の上演状況は下記の通りである。

斎藤一篇：2012 年 4 月 27 日～ 5 月 8 日、サンシャイン劇場

沖田総司篇：2013 年 3 月 14 日～ 3 月 24 日、サンシャイン劇場

土方歳三篇：2013 年 10 月 2 日から 10 月 11 日、日本青年館大ホール

薄ミュライブ：2014 年 1 月 4 日～ 5 日、日本青年館大ホール

風間千景篇・神戸公演：2014 年 5 月 16 日～ 5 月 18 日、新神戸オリエンタル劇場

同・東京公演：2014 年 5 月 23 日～ 6 月 1 日、シアター 1010

藤堂平助篇・京都公演：2015 年 1 月 10 日～ 12 日、京都劇場

同・東京公演：2015 年 1 月 17 日～ 1 月 25 日、六本木ブルーシアター

黎明録・東京公演：2015 年 5 月 23 日～ 31 日、AiiA 2.5 Theater Tokyo

同・京都公演：6 月 10 日〜 14 日、京都劇場

同演目の音楽の作曲者はテニミュと同じく佐橋俊彦で前掲のインタビュー記事では、薄ミュについて語っている箇所があり、テニミュとの違いについても言及しているなど注目すべき点が多いので引用する。

「(前略)チャレンジしているのは、曲。『テニミュ』や『セラミュ』はスタンダードな作り方をしていて、台本に従って曲を作り、間を BGM で埋めていくやり方に対して『薄ミュ』は音楽で長いシーンを作るというコンセプトを最初に作ったんです。だから、1 曲 10 分とか、時間を音楽の中で消化させるやり方なんですね。これは僕にとって凄い実験ですね」。

さらに、その音楽をめぐっては「毛利亘宏氏に聞く、ミュージカル『薄桜鬼』。」(『Trickster Age vol.18』pp.84-91)において、演出家である毛利亘宏が注目すべき発言をしており、その主旨をまとめると次のようになる。演出面の見どころは「“ 殺陣とダンスと歌の融合」で、「斎藤一篇」ではテーマ曲にして代表曲でもある「ヤイサ！ヤイサ！」の作詞は演出家自身の作であるという。上記の上演状況にも表記されているように、本演目もテニミュ同様、楽曲によるライブ公演が実施されており、それについては「ミュージカル『薄桜鬼』の曲は、単純に歌って芝居もしましたというものではない。1 曲で尺が 10 分以上ザラで、佐橋先生の作る楽譜に、セクションごとに A からアルファベットが順に振ってあるのだが、アルファベットを使い切る。通常、楽譜 10 ページ超えとかでないと Z まではなかなか出てこないが、Z を超えると次は数字で、〝この先いくらあっても大丈夫〟みたいになる。そんな楽曲たちをどうやってライブで聴かせようと苦心したが、〝ここまでやっても『薄桜鬼』は『薄桜鬼』なんだ！〟というスタイルを見せることができた」と語っている。

ミュージカル「忍たま乱太郎」は、その公式 HP の説明に「2015 年 6,7 月の第 6 弾再演までの 6 年間で、公演回数が累計 208 公演、入場者は延べ十二万二千人を超え、第 6 弾再演では全 21 公演中 13 公演が満席という大人気ミュージカルに成長」とあるように、テニミュに比肩する人気演目であることが伺える。第 7 弾「水軍砦三つ巴の戦い　兵庫水軍エピソードゼロ」は 2016 年 1 月 9 日から 23 日、池袋サンシャイン劇場で公演が予定されており、主要キャストは交替するが、音楽は引き続き YOSHIZUMI が担当している。

ミュージカル「黒執事」は最新公演でメインキャストや音楽スタッフなどに変化が起きた。執事役のセバスチャンが松下優也から古川雄大へと交替したことのほかに、作曲家の交替はそれより一歩先んじて坂部剛が担当しており、また中国公演（北京、上海ほか）も予定されていることは本演目だけではなく 2.5 次元ミュージカル全体にとっても特筆すべき変化であると言えよう。

「MUSICAL AMNESIA」は、2011 年にオトメイトから発売された PSP 向けの乙女ゲーム『AMNESIA』を原作とし、ゲームのプレーヤーが大学 1 年生の主人公となり、様々なタイプの男性キャラクターと恋を育んでいく内容をミュージカル化したものである。初演は 2014 年 1 月 9 日 ~19 日、銀座・博品館劇場で、出演者は栗原吾郎、畠山遼、小林涼、井澤勇貴、磯貝龍虎。主要スタッフは演出：吉谷光太郎、脚本：太田ぐいや、音楽：tak　振り付け：MAMORU となっている。そして、「MUSICALAMNESIA re:again」として再演が行われている（〈東京公演〉10 公演、2015 年 9 月 3

日～ 10 日、全労済ホール／スペースゼロ、〈大阪公演〉5 公演、同年 9 月 20 日～ 23 日、大阪ビジネスパーク円形ホール）。本演目は映像のほかに音楽 CD「MUSICAL AMNESIA Vocal Collection」も出版されており、収録楽曲のスタッフについて「All Words & Music by Yoshitani(Creative Zero)&tak」と記されている。

公演時期が 2013 年 9 月 3 日～ 8 日（於シアター G ロッソ）とややさかのぼるが、「コードギアス　反逆のルルーシュ」A-LIVE FANTASIC DREAM SHOW も、イラストを舞台上の奥に設置されたスクリーンに映し出しという特徴的な演出を用いている。もともとはミュージカル「コードギアス　反逆のルルーシュ - 魔人に捧げるプレリュード - 」（2012 年 6 月 28 日～ 7 月 8 日、銀河劇場）だったものをライブショーとしての再構成した公演で、このように 2.5 次元ミュージカルの演目には、演劇としてだけでなく、音楽ライブの形式を併せ持つものが少なくない。出演者はダンスグループの D ☆ D のメンバーが多く含まれており、音楽は la malinconica が担当している。

次に現時点では未シリーズ化のものについてだが、あべ美幸「八犬伝－東方八犬異聞－」（株式会社 KADOKAWA 発行／ ASUKA COMICS CL-DX 刊）の原作によるミュージカル「八犬伝－東方八犬異聞－」（2015 年 8 月 14 日～ 23 日　シアターサンモール）で犬川荘介役を演じる北村涼はミュージカル初挑戦であるとインタビュー記事で述べている（『オトメディアステミュ vol.1』学研、2015 年 8 月 14 日、pp.66-68）。実際、2.5 次元ミュージカルの主要キャストはテニミュの初演当時から現在に至るまでミュージカルはおろか、演劇が初舞台という俳優が少なくない。そうした状況は同ミュージカルの音楽レベルにどのように作用を及ぼしているかという点も、今後考察を進めていく必要があるだろう。音楽は浅井さやかが担当している。

今後公演が予定されるものでは、『青春鉄道』（KADOKAWA コミックウォーカー連載中）を原作とし、脚本・演出・作詞：川尻恵太、音楽：あらいふとし＋ミヤジマジュンというスタッフによるミュージカル「青春鉄道」（2015 年 11 月 18 日～ 23 日　全労済ホール／スペース・ゼロ）ほか、枚挙に暇もない程続々と新作が生み出され、まさに隆盛の時代到来を予感させるものがある。

それから、THE Musical という語が演目名の前後に配置されているものとして、例えば 2015 年 4 月 6 日から 29 日まで日生劇場を中心に上演された「デスノート THE Musical」は、日本テレビとホリプロによる制作で、栗山民也の演出、主な出演者は浦井健治、柿澤勇人のダブルキャスト（夜神月役）、小池徹平（L 役）、鹿賀丈史（夜神総一郎役）、吉田綱太郎（死神リューク役）ほか、一般のミュージカルや舞台で活躍している俳優で占められ、いわゆる 2.5 次元ミュージカルの経験者は含まれておらず、音楽がフランク・ワイルドホーン[3] という点でも異彩を放っている。それと同じく演目名の前に The Musical という語を配する「The Musical　花より男子」（2016 年 1 月 5 日 - 1 月 24 日、シアタークリエ）は原作：神尾葉子（集英社マーガレットコミックス刊）、脚本：青木豪、演出：鈴木裕美、音楽：本間昭光、主要出演者：松下優也（X4）、白洲迅、真剣佑、上山竜治、加藤梨里香、主催：東宝・キューブ・ネルケプラニング、企画協力：集英社、マーガレット編集部というキャスト・スタッフともに豪華な顔ぶれであることはもちろん、原作の世界初のミュージカル舞台化であり、原作の知名度の高さからも上演前から大きな関心を集めている。

続いて、ミュージカルという語以外の冠が付けられている演目では、音楽劇「金色のコルダ」が異色の存在感を示している。同じ系統として原作のゲームを元に上演されたネオロマンスステージ・ステラミュージカル「金色のコルダ」として上演されたことは記憶に新しい（作詞・脚本・演出：カリニカ、音楽：村松崇継）が、直近の演目は「日本テレビ系列で放送されたアニメ『金色のコルダ Blue ♪ Sky』を舞台化したもので、舞台版では如月響也を主人公に、室内楽に打ち込む高校生の青春をクラシックの名曲に乗せ熱く爽やかな物語となっており、また、2.5 次元の舞台化では稀少なプロ奏者による生演奏も必見！」（2015 年 9 月のシアター情報誌『カンフェティ vol.129』p.21）というように、本作はアニメを原作として、主人公を如月響也に設定するなどステラミュージカル版とは若干の異同が見られる。ステラ版では創作楽曲も挿入されていたが、今回はどのようになっているのか、さらなる調査が待たれる。上演時期、場所は 2015 年 9 月 4 日 ~13 日、全労済ホール／スペース・ゼロ。

ミュージカルと銘打ってはいないが、同類の乙女系のネオロマンスステージ「遥かなる時空の中で」もやや断続的な感はあるものの、引き続き上演されている。原作のゲームはコーエー（GAMECITY 文庫『遥かなる時空の中で　朧草紙』）、コミック原作：水野十子（白泉社：LaLa・LaLaDX）、監修：ルビー・パーティ、脚本：山田由香、音楽：高梨康治／藤澤健至、テーマソング：たいせい、という布陣で高い人気を保持している。その最新公演は「遥かなる時空の中で 6」として 2015 年 11 月 27 日〜 12 月 6 日、全労済ホール／スペース・ゼロで行われる予定である。

それから「ロック」の一語が含まれているものとしてまず思い起こされるロックミュージカル「ブリーチ」は、最近上演される機会が減少しているが、キャスト・スタッフが大幅に交替した新生版「ロックミュージカルブリーチ」の音楽を、かみむら周平が担当しており、かみむらはミュージカル「リボンの騎士」の作曲も手がけている。冠名にロックの文字が含まれている最近の演目では、原作がアニメやコミックではないが、2.5 次元ミュージカルで活躍している俳優によって再演されたロックオペラ「サイケデリック・ペイン」があり、公演時期、キャスト・スタッフは下記の通りである。

東京公演：2015 年 4 月 4 日〜 4 月 12 日、天王洲銀河劇場

福岡公演：2015 年 4 月 17 日〜 4 月 19 日、キャナルシティ劇場

大阪公演：2015 年 4 月 30 日〜 5 月 4 日、梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ

【作】森雪之丞【音楽】布袋寅泰【演出】茅野イサム【出演】小越勇輝 桜田 通　佐藤永典　慎之助　汐崎アイル／七木奏音／玉置成実／佃井皆美　冨森ジャスティン 林野健志 山岸門人／麻生かほ里 ／藤木 孝

そこでは出演者たちによる生演奏が大きな見どころとして位置づけされていることを雑誌のインタビュー（『NEXT vol.1』p.14）で出演者自らが言及しており、それらを抽出して以下に記してみる。

慎之助「生演奏は注目して欲しいと思います。実際に演奏しますし、曲も素晴らしいんです。ぜひそこはビシバシと感じていただきたいですね。」、佐藤「生演奏は見どころですね。やっぱり音楽は大きいじゃないですか。この作品の楽曲はどれも素

敵だし、歌詞がセリフになっているのもいい。音楽で伝えたり、セリフで普通に伝えたり、全部カッコイイんですよ。・・・」、桜田「やっぱり一番の見どころは音楽で、布袋（寅泰）さんの作ってくださった曲を僕たちが演奏するっていうのが、一番熱いんじゃないかなっておもいます。・・・」。

それから、超歌劇、学蘭歌劇、最遊記歌劇伝などの新しい冠名の演目が増えていることも最近の傾向として指摘することができる。冠名が歌劇系の演目で、超歌劇「幕末ROCK」は初演（2014年12月24日〜29日、天王洲銀河劇場）で「観客参加型のライブ要素を取り入れた」点が注目され人気を博し、再演として超☆超歌劇「幕末ROCK」が2015年8月8日〜9日に梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ、8月13日〜16日にZeppブルーシアター六本木、そして全国の映画館でのライブ・ビューイングが8月16日に行われた。

同演目について、出演俳優の矢田悠祐は「ライブと演劇の中間という新しいジャンルの舞台」「（再演）で楽しみにしていただきたいのはやっぱり新曲ですね！」、そして公演で大変だったことの質問に「僕はやはり演奏ですね。演奏の演奏を疎かにするとすぐお客さまにわかってしまうというか。さらに演奏をしながら尚且つ歌って、台詞を言ってというのはすごく大変でした。」、「観衆がペンライトを振る」という様子を述べている（『Spoon.2Di Actors vol.2』pp.42-43）。

本作は単独の作曲家によるものではなく、音楽制作：テレビ朝日ミュージック／マーベラスとなっている点が他の演目と異なっており、超★超歌劇「幕末ROCK」の公演プログラム（写真２）には、全19曲の曲名が歌唱担当の役柄とともに掲載されている。

1.「Rolling Thunder」（坂本・高杉・桂）2.「Crash My Head」（坂本）3.「What's this?」（坂本・高杉・桂）4.「非常幻想 - オーバーミラージュ」（土方・沖田）5.「INTERSECT」（坂本・土方・沖田）6.「REACTION」（高杉）7.「残響 -feedback-」（沖田）8.「ハチノジディストーション」（桂）9.「光の原石」（近藤）10.「暁のFreebird」（土方・沖田）11.「モット!!!」（土方）12.「黒曜蝶 - ブラックバタフライ -」（井伊）13.「生きてゆこう」（高杉）14.「LAST SCREAM」（坂本）15.「五色繚乱」（坂本・高杉・桂・土方・沖田）16.「宙の翼」慶喜ver.（徳川）17.「×××ing」（坂本・高杉・桂・土方・沖田）18.「絶頂DAYBREAK」（坂本・高杉・桂・土方・沖田）。

その他、各キャストに聞いたそれぞれの曲への感想や稽古をした時の印象などが記されており参考になるが、その詳細については別途機会を設けて論じたい。

学蘭歌劇「帝一の國」は2014年初演で、翌年に再演されてDVDも出ており、勢いが感じられる。作曲は演出の小林顕作が全11曲を書き下ろしている点が異色である。残酷歌劇「ライチ☆光クラブ」は2006年に刊行された古屋兎丸作の漫画「ライチ☆光クラブ」を原作とし、2012年に舞台化（江本純子演出）されて人気を博した演目をベースにミュージカル化したもので、2015年12月18日〜27日にAiiA 2.5 Theater Tokyoで上演が予定されている（作曲は和田俊輔が担当）。その概要を制作のネルケプランニングの公式HPから引用する。

工場からの黒い煙に覆われた町、螢光町の廃墟に、学生服に身を包んだ少年たちが集う秘密基地「光クラブ」があった。彼らはある「崇高なる目的」のために、“甘美なる機械(マシン)”ライチを創りあげる。醜い大人になることを拒み、永遠に美しくあることを選んだ少年たちの幼いが故の純粋で暴力的な欲望と狂気—。今回はこの世界を、演出を手掛ける河原雅彦が、

中村倫也をはじめとする人気、実力十分の多彩な役者陣と、東京ゲゲゲイという異能の集団を混ぜ合わせ、さらに猥雑で混沌とした世界へと再生する！

シリーズものとして 2.5 次元ミュージカルの人気演目である「最遊記歌伝」は 5 年ぶりに披露する最新作『最遊記歌劇伝 -Reload-』が 2015 年 9 月 17 日〜 23 日、サンシャイン劇場で上演された。スタッフは、原作：峰倉かずや『最遊記』『最遊記 RELOAD』（一迅社刊）、脚本・演出・作詞：三浦　香（FuncAScamperS009）、音楽・歌唱指導：浅井さやか（One on One）、振付：森川治朗（パシフィック・カンパニー）、アクション：栗田政明（倉田プロモーション）で、主演の鈴木拡樹（三蔵法師役）は『Spoon.2DiActors vol.2』p.54 のインタビューで、「『Reload』でさらにパワーアップさせたいと思っていること」という質問に、鈴木「今回は何ができますかね・・・。『最遊記歌劇伝』の“歌劇伝”というものが、“ミュージカル”とはどういった違いがあるのかというのも探っていかなくてはいけないと思っていて。」と述べており、出演者も演目の冠名の意味について明確な意識を持っていることをうかがわせる。

その他、ゲーム系の舞台作品の中で音楽的に興味深いのが「ペルソナ」である。その第 1 作である舞台「ペルソナ 3 the Weird Masquerade 〜青の覚醒〜」（原作：PS2 用ソフト『ペルソナ 3』（アトラス)、演出：奥　秀太郎、脚本：熊谷　純）は 2014 年 1 月 8 日〜 12 日、シアター G ロッソで上演された。第 2 作は舞台「ペルソナ 3 the Weird Masquerade 〜群青の迷宮〜」で、2014 年 9 月 16 日〜 23 日、シアター 1010 で上演され、第 1 作と第 2 作では出演者の若干の異同があるが、主人公の汐見朔也役＝蒼井翔太、汐見琴目役＝阿澄佳奈、岳羽ゆかり役＝富田麻帆、伊織純平役＝大河元気、ファルロス役＝植田圭輔ら主な役どころは同じである。ダンス、マイム、音楽、映像でその独特の世界を表現しているペルソナ 3 の音楽は目黒将司によるゲームのオリジナル音楽を用いながら、作曲・編曲・歌唱指導を桑原まこが担当している。

同類の「VISUALIVE PERSONA4」（2012 年 10 月 3 日〜 9 日、銀河劇場）は「俳優の生の演技×迫力の映像演出でゲーム「ペルソナ 4」の世界観を完全表現！」と評されており、その公式 HP には「『VISUALIVE（ビジュアライブ)』とは脚本・演出の浅沼晋太郎と、映像演出の奥秀太郎による『視覚効果に特化したパフォーマンス』と『俳優の生の演技』とをスタイリッシュに融合させた、全く新しいライブエンターテイメント」と記されている。ペルソナ 4 の音楽は舞台音楽：和田俊輔、オリジナル音楽は目黒将司で、こちらもオリジナル音楽をある程度使用していることが窺える。主な出演者はミュージカル「テニスの王子様」、ミュージカル「銀河鉄道の夜」などに出演した馬場徹ほかが名を連ねている。

今や、2.5 次元ミュージカルは、専用劇場のほかに、シアタークリエなどオーソドックスなミュージカルの上演劇場にも進出し、期間も全体に長期化している。出演俳優も声優、ミュージシャン（蒼井翔太、松下優也ら）へと範囲が拡大し、一部の演目では作曲家の交代が見られた。DVD などの関連グッズの発行販売はもとより、映画館でのライブ・ビューイング（海外へも）やニコニコ生放送などを通じてのネット中継も珍しいことではなくなった。

3　2.5 次元ミュージカルの作曲家について

2.5 次元ミュージカルの作曲家に関する情報は人物により差があるものの、全体としてあまり多いとは言えない状況にある。特に俳優の写真が紙面を大きく占めていることで構成されている上記の諸雑誌や一般の音楽芸能の文献に見出すことは極めて稀であるため、インターネットに散見する情報に依拠する割合が高くなるが、作曲家によっては情報量自体が少ない上に、その質も玉石混交であるため、慎重な選択、利用を念頭において、公式 HP、公演プログラムなどに掲載される信頼できるプロフィールを元にできるかぎりその概況を整理して見る。

2.5 次元ミュージカルの作曲家には、１つの演目を１人の作曲家が継続して音楽創作するものと交替するもののどちらにせよ、総じて比較的範囲の限られた人材群だったが、近年は 2.5 次元ミュージカルの発展に呼応するかのように、日本人以外の作曲家も関わるなど作曲家の数も増加し、個人ではなく団体による音楽制作も増えて、創作方式も多様化の傾向が見られる。以下、作曲家の人数、出自・経歴、一般のミュージカル創作との関わりを含めての創作活動範囲や、さらに雑誌記事における音楽に対する情報を抽出し、それらから知り得る音楽的特徴を提示する。

・佐橋俊彦

東京芸術大学音楽学部作曲科卒の佐橋俊彦は所属事務所の公式 HP に華麗な業績が記されており、もはや改めて紹介する必要もないので、ここでは省略し、それ以外の作曲家についてその経歴を所属事務所の公式 HP、自身のブログなどを引用してまとめてみる。

・坂部剛（以下、所属事務所の HP より。）

小学校１年生からピアノを習い始め、中学生になるとロックに目覚める。そのころから家にあった Mac で Finale（楽譜作成ソフト）を使って曲作りを始め、作曲に目覚める。高校では合唱部に入部し、ジャンルにとらわれずに音楽に親しみ、高校２年の冬に、もっと音楽を知りたいという動機から、音大に進学することを決意し、国立音楽大学作曲科入学。作曲を菊池幸夫氏、飯島俊成氏、小河原美子氏に師事。ピアノを吉野弘子氏に師事。その後、作・編曲家、佐橋俊彦氏に師事し、アシスタントをしながらミュージカル音楽や映像音楽を実践的に学び始める。2006 年、リーダーアルバム『ピアノ・カフェ〜秋の恋歌』（編曲・ピアノ演奏）をキングレコードよりリリース。好評を得て『PIANOSTYLE』（リットーミュージック刊）のレギュラーアレンジャー、ピアニストとなる。2007 年、アニメ「ゼロの使い魔〜双月の騎士」の主題歌「I SAY YES」で作曲家デビュー。2008 年夏、ミュージカル「『DEAR BOYS』vs. EAST HONMOKU」の音楽を担当。同年秋、劇団四季の創立 55 周年記念作品『55 Steps SONG & DANCE』の編曲に抜擢される。2009 年新春、舞台『オアシスと砂漠〜 Love on the planet』（於：青山劇場）の音楽を担当。本格的な舞台音楽（ダンス・歌あり）を書き下ろし、高評価を得る。同年夏公演からミュージカル『テニスの王子様』シリーズの新曲の全アレンジを手掛けるようになり、その後のセカンドシーズンも引き続き担当。2009 年 12 月、舞台『パッチギ！』（於：新国立劇場・中劇場）の音楽に演出家、茅野イサム氏の推挙により、急遽の大抜擢。「イムジン河」のアレンジをはじめ、舞台オリジナルの書き下ろしに挑み好評を得る。その後は、アーティストへの楽曲提供、アレンジ、アニメ主題歌、舞台、ミュージカルと次々に新作を手掛ける。2013 年春 TV アニメーション『デート・ア・ライブ』で初の劇伴を担当。オープニングテーマ「デート・ア・ライブ」（歌：sweet ARMS）の作・編曲も手掛け、高評価を得てその後も多くのアニメ劇伴を手掛けるようになる。2014 年、東映スーパー戦隊『烈車戦隊トッキュウジャー』では、オープニング主題歌「烈車戦隊トッキュ

ウジャー」（歌：伊勢大貴）の作・編曲を手掛ける。2015 年、アニメ『劇場版 デート・ア・ライブ〜万由里ジャッジメント〜』で初の映画劇伴を手掛ける。アレンジを務めるミュージカル『テニスの王子様』シリーズでは、『テニスの王子様〜青学 vs 聖ルドルフ〜 PRINCE OF TENNIS 3rd season 〜』から作曲にも参加するようになる。同年秋よりスタートの、東映『仮面ライダーゴースト』の劇伴を担当するなど、近年ますます活動の場を拡げている。ロック少年の原点に、クラシックの素養を持ち合わせ、ジャンルやスタイルにこだわらない作曲家を目指し、アグレッシブに活動中。

・和田俊輔（以下、作曲者自身の HP より。）

独学で作曲を学び、大学在学中より本格的に音楽活動を開始。舞台音楽を中心に、ミュージカルや映像作品、アーティストへの楽曲提供等、数多くの音楽を手がける。ジャンルや国籍の枠をこえた幅広い世界観と柔軟な音楽性は、演出家やアーティストから絶大な信頼を寄せられている。また、自身がプロデュースする音楽ユニット「てらりすと」としても活動をしている。

・玉麻尚一

2.5 次元ミュージカルの創作では、ロックミュージカル「ブリーチ」で知られているが、この作曲家についての経歴に関する情報は非常に少なく、自身のツイッターによれば、従来から主に一般のミュージカルを中心に創作活動を展開しており、近年の注目作にミュージカル「HEADS UP!」があるという。

・岩崎琢

DVD ミュージカル「黒執事〜千の魂と堕ちた死神　The Most Beautiful DEATH in The World」（MPEG-2、アニプレックス）の解説書には経歴と創作スタンスが以下のように記されている。

東京芸術大学作曲科卒業。佐藤真、青島広志の各氏に師事。1986 年神奈川県芸術祭合唱曲作曲コンクール一位入賞。1989 年日本現代音楽家協会作曲コンクール新人賞入選。大学卒業後、アレンジャーとして音楽活動を開始。2000~2002 年、音楽ユニット「Smart Drug」に参加。3 枚のミニアルバムを発表する。1999 年より数々のアニメーションのための音楽を手がけ、代表作には「黒執事」のほか、「るろうに剣心追憶編」、「ROD-THE-TV-」、「エンジェルハート」「天元突破グレンガラン」「PERSONA-trinity soul-」「ソウルイーター」「刀語」などがある。今更ですが、僕はこれまでミュージカルの音楽を作りたいと思った事はありませんでした。まず僕は曲を書くのが遅く、そして日本語に媚びる様な、西洋音楽を手っ取り早く薄めたメロディーを作るのに非常に抵抗があり、おまけに閉じられた世界の中でしか通用しないクオリティーの音楽を求められることに対する危機感を著しく持っているのがその主な理由です。（その割に密室で消費されるアニメの音楽を作っていますが、、、）。

・YOSHIZUMI

忍たま乱太郎の作曲家として知られ、最近はミュージカル「刀剣乱舞」トライアル公演（10 月 30 日 ~11 月 8 日、AiiA 2.5Theater Tokyo）の音楽監督を務め、活躍の場を広げているが、経歴に関する情報は少ない。名古屋市のイベント「キャナルアート」に出演の際、同 HP には次のような経歴が書かれている。

6 歳からピアノを鈴木慶子氏に師事。日本大学芸術学部音楽学科ピアノ専攻科にて故松谷翠氏に師事。舞台俳優として 15 年活動後、2007 年より作曲活動を開始。現在主に映画、舞台など劇版作家として活躍中。特にピアノを主体とした叙情性あふれるサウンドトラックには定評がある。また鍵盤楽器以外にもギター、ベース、ドラムなどすべて一人でこなしジャンルに囚われない幅広い作風で、近年では映像作品をはじめミュージカルへの楽曲提供など、活動の幅を広げている。ダンサーへの楽曲提供も数多く手掛けており、浅井信好や森山開次とのコラボレーション作品も多数。近年では Cie PIERRE MIROIR の作品でパリ日本文化会館大ホールにて、ヨーロッパデビューを果たしている。

・浅井さやか（以下、所属団体の HP からの引用。）

1979 年長崎生まれ。高校生の頃から小説を執筆。早稲田大学入学後、早大ミュージカル研究会にてオリジナルミュージカルの創作に携わる。2001 年秋、One on One を発足。第 1 回公演として『しあわせの詩』を上演。その後、新作ミュージカルを年に 2 ～ 3 本のペースで創作。 2006 年夏、新国立劇場小劇場にて、元宝塚トップスター真琴つばささん・曾我泰久さんの二人芝居・音楽劇「La Notte」の脚本・演出を手がけ、好評を得、作家としてのメジャーデビューを果たす。翌 07 年 5 月、新国立劇場中劇場にて、フジテレビジョン主催ミュージカル「エンジェル・ゲート」の脚本・演出に抜擢される。以降、劇団以外の公演に、演出、音楽、脚本、歌唱指導など様々な形で参加。09 年に流山児★事務所「ユーリンタウン」の演出補佐・訳詞を担当、第 44 回紀伊國屋演劇賞団体賞を受賞。08 年以降、サンリオのミュージカル作品にも脚本や音楽を提供、サンリオキャラクターを生かした、子供も大人も楽しめるファミリーミュージカルの創作力を高く評価される。12 年には大人気シリーズ乃木坂 46「16 人のプリンシパル」初演の脚本・演出、14 年には黒木メイサ主演、岸谷五朗演出の「VAMP ～魔性のダンサー　ローラ・モンテス～」の脚本を手がけるなど、活動の幅を大きく広げている。本当の意味で芝居と歌（音楽）が融合したミュージカルによって、ミュージカルが苦手な人の心にも響く作品作りを続ける。また、出身地長崎の舞台芸術の普及率の低さを問題視し、地方都市へのミュージカルの普及をめざす。 現在ミュージカル界で注目をあびている、ミュージカルクリエイター！。

・あらいふとし（以下、作曲者自身の HP からの引用。）

歌唱・演奏・作詞・作曲・編曲・音楽屋。1977 年 7 月 21 日生まれ。茨城県出身。O 型。one cake size feathers のギターボーカル。10 年以上、数々のバンドを経て現在に至る。歌、ギター、ベース、コンピューター等を駆使し、ほろりとくる歌ものからコントの歌、童謡のアレンジから吐き気がするようなインストまで、様々なジャンルの音楽をつくる。

・本間昭光（以下、作曲者自身が設立した事務所の HP からの引用。）

初のミュージカル音楽担当で注目。ますます人材の幅が広がる 2.5 次元ミュージカル。本間 昭光（ほんま あきみつ、1964 年 12 月 19 日 - ）は、日本のミュージシャン、音楽プロデューサー。大阪府出身。ブルーソファ所属。現在はアーティストの楽曲提供やアレンジ、プロデュースを中心に活動し、レコーディングやライブの際は主にキーボードの演奏を行う。別名義に ak.homma がある。

・かみむら周平（以下、所属事務所の HP より引用。）

1979 年生まれ。静岡県出身。東京音楽大学作曲専攻卒業。'07 年蜷川幸雄氏演出「オセロー」を皮切りに、蜷川作品をはじめ、数々の舞台音楽を手がける。また、映画・TV アニメの BGM やオーケストラアレンジなどでも活躍。ボーカリスト YUKINO とのユニット「White_Classical_Band」では、作詞・作編曲・ピアノ・プロデュースを担当し、2 枚のマキシシングルをリリース。2010 年 3 月、ロシアのサンクトペテルブルクで開催された「TEREM CROSSOVER 国際音楽コンクール」に尺八・三味線 アーティスト HIDE-HIDE と共にトリオで日本から唯一の出場者として エントリー。世界 20 カ国、約 70 組のアーティストが参加の激戦の末、優勝と特別賞を受賞する。ミニマルミュージックから壮大なオーケストラまで、今、最も期待される作曲家である。

・村松崇継（以下、作曲者自身の HP より引用。）

1978 年生まれ。浜松出身。国立音楽大学作曲学科卒業。高校在学中にオリジナルのピアノ・ソロ・アルバムでデビュー、これまでに自身のピアノを中心とした 5 枚のオリジナル・アルバムをリリース。作曲家としても早くからその才能が注目され、大学 4 年在学中の 2001 年に映画『狗神』、2002 年には映画『突入せよ！あさま山荘事件』、2004 年 NHK 連続テレビ小説『天花』の音楽を NHK 歴代最年少で担当する。これまでに 50 タイトル以上の映画、TV ドラマ、舞台等の音楽を手掛ける。主な

作品としては映画「クライマーズハイ」「オリヲン座からの招待状」「夕凪の街 桜の国」「大奥」「大奥 ~ 永遠」「遺体～明日への 10 日間」などがある。その中にはモントリオール世界映画祭受賞作品（映画「誰も守ってくれない」「アントキノイノチ」）など、国際舞台でも高く評価された作品が含まれている。最新作としては映画「抱きしめたい」がある。クラシックからポピュラーまで、国内外の幅広いジャンルの著名アーティストへ、楽曲提供も多い。特にイギリスのボーイソプラノ・ユニット、リベラが歌う「彼方の光」は、NHK ドラマ『氷壁』の主題歌として大ヒット、世界同時リリースも話題となった。また、2012 年 NHK 土曜スペシャルドラマ「負けて、勝つ～戦後を創った男・吉田茂」の主題歌「この先の道」(作詞：松井五郎) を世界的歌手ジョシュ・グローバンが歌い、その楽曲はアメリカ、イギリスをはじめ世界各国で発売されている。リベラ以外の海外アーティストとのコラボも数多く、ケルティック・ウーマン、ラッセル・ワトソン、ヘイリー、キャサリン・ジェンキンス等と共演、ピアノ演奏、編曲も担当する。2014 年スタジオジブリの最新作『思い出のマーニー』の音楽を担当。同年、第 81 回 NHK 全国学校音楽コンクール（小学校の部）課題曲『ゆうき』（作詞 : 中川李枝子）を作曲。

・**高梨康治／藤澤健至**（以下、所属事務所の HP から高梨、藤澤の順に引用。）

ハードロックとオーケストラの融合による重厚かつ華麗なサウンドを得意とする。和ハードロックバンド、『六三四(musashi)』に参加する一方、映画、アニメーション、テレビドラマ、ゲームサウンドトラック、アーティストへの楽曲提供等、多方面で精力的な活動を続けている。ロックミュージシャンでありながら、フルオーケストラアレンジを手掛けることができ、和楽器独特の世界との融和も織り成せる、数少ない音楽家である。2013 年、2014 年「JASRAC 国際賞」を受賞。

専門学校を卒業後、ギタリストとして数々のアーティストや映像作品のレコーディングやライブに参加。主にハードロックの分野を専門とする。また同時に作曲・編曲家として、アーティストへの楽曲提供やテレビアニメーション BGM、舞台音楽、ゲームサウンドトラックなど活動を続けている。

現在のネットの情報では、履歴取得が難しく、詳細が不明である作曲家および団体は la malinconica、tak、テレビ朝日ミュージック／マーベラスが挙げられる。確かに、一般のミュージカルの作曲家、劇伴音楽の研究が少ない現状では、2.5 次元ミュージカルの音楽研究の起動も容易ではなかったが、実際に調べ始めると豊かな人材の存在が徐々に浮かび上がり、その創作スタイルの多様性は注目に値することが分かってきた。いずれにせよ、新しい優れた人材が続々と登場し、目覚ましい活躍を展開していることから、2.5 次元ミュージカルの音楽ジャンルの広汎性を感じ取ることができる。

結論

以上、2.5 次元ミュージカルの音楽様式に見る多元性の概観とその文化史的意義を考察するための準備として、作曲家の作風の特徴と演目の増加、発展を考え合わせる必要性を提示した。2.5 次元ミュージカルの作曲家と演目を俯瞰すると作曲家の増加・多様化、演目の増加・類型化、豊富な出演者・スタッフが音楽様式の確立にどう作用するかますます興味、期待が高まる。総体的に見て、出演俳優、スタッフの活動の範囲から演劇、音楽、映画の新しい動きが感じられ、そういう意味ではもはや 2.5 次元ミュージカルのカテゴリー形成が着実に実行されていると見てよいのではないか？

今後は、演目の増加、題材の内包性の拡張と類型化、登用される作曲家の多様化との相互関連な

どを視野に入れつつ2.5次元ミュージカルの音楽的諸相をさらに深く洞察していくことが求められる。特に、ライブ公演、劇中ライブなど音楽ライブを重視している点は「ダイヤのA」The LIVE（2015年8月1日～9日、Zeppブルーシアター六本木）にも反映され、そして本稿で提示したミュージカル、舞台、超歌劇、学蘭歌劇など冠名の多様化は、以下の事例をもって、さらに新しい変化が進行中であることは明らかであろう。

漫画×演劇×映像のバイブリッドパフォーマンスと銘打って上映された、ハイパープロジェクション演劇「ハイキュー」（東京公演：AiiA 2.5 Theater Tokyo、2015年11月14日～23日、大阪公演：シアターBRAVA!、2015年11月27日～29日、宮城公演：多賀城市民会館大ホール、2015年12月5日、東京凱旋公演：2015年12月10日～13日、AiiA 2.5 Theater Tokyo）も新しい冠名として要注目で、音楽は和田俊輔が担当している。さらに、原作の文庫（小説）からコミック、アニメそして舞台化された魔劇「今日からマ王!-魔王再降臨-」（2015年10月1日から15日まで全労済ホール／スペース・ゼロ）の音楽はYOSHIZUMIが担当しており、日本のゲーム音楽はハリウッド映画を思わせるサウンド、アニメ音楽はJ-Popとのつながりの深さを思わせる音楽作りが支配的という一種の画一性が感じられる中、2.5次元ミュージカルの音楽の多様性には期待が高まるばかりである。

写真１　ミュージカル「テニスの王子様　青学 VS 聖ルドルフ」大千秋楽ライブビューイング

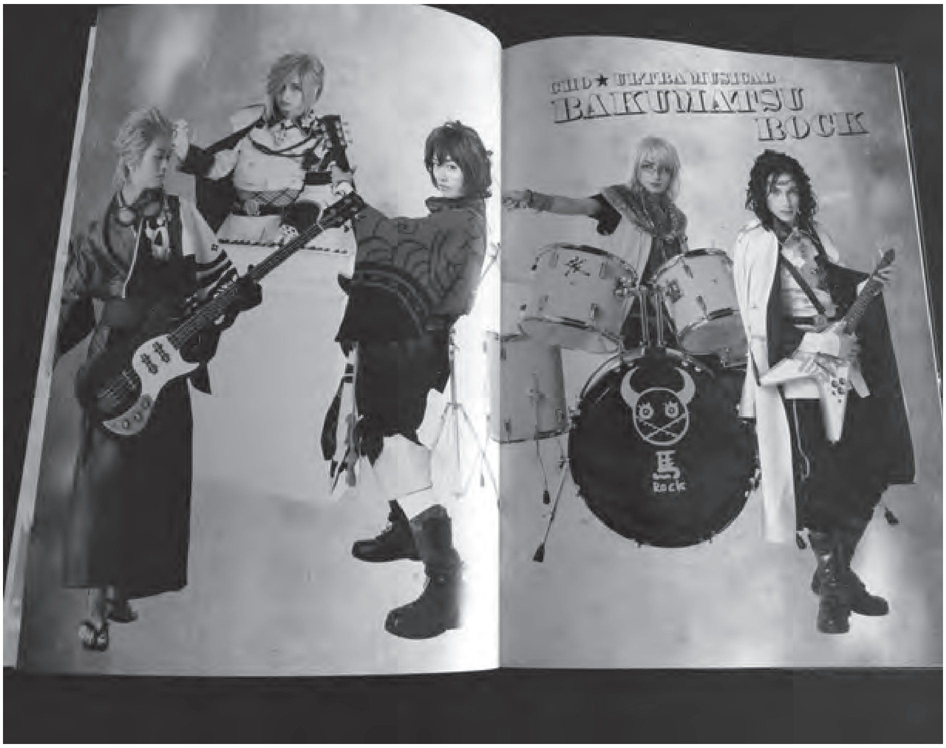

写真２　超☆超歌劇「幕末 ROCK」公演プログラム

写真３　ミュージカル「刀剣乱舞」トライアル公演プログラム

註

1　AiiA 2.5 Theater Tokyo は東京都渋谷区神南 2-1-1　国立代々木競技場　渋谷プラザに位置し、多言語語対応の字幕眼鏡を用意している。
2　通常、それらの語は演目名の前に付されるが、例外的なのは「デスノート」で、末尾に The Musical と付されており、同様の表記による最新作には「花より男子」がある。
3　アメリカの著名なミュージカル作曲家で、代表作に「ジキルとハイド」などがある。

参考資料（発行年月日順）

［文献（雑誌）］
『Stage PASH! vol.01』主婦の生活社、2014 年 11 月 2 日
『別冊 Spoon.2Di Actors vol.64』プレビジョン、2015 年 2 月 18 日
『TricksterAge vol.18』徳間書店、2015 年 3 月 15 日
『Stage2.5 × D vol.1』辰巳出版、2015 年 4 月 20 日
『NEXT』vol.1　メディアソフト、2015 年 5 月 1 日
『Stage PASH! vol.03』主婦と生活社、2015 年 6 月 12 日
『W! vol.6』廣済堂出版、2015 年 8 月 1 日
『Spoon.2Di Actors vol.2』プレビジョン、2015 年 8 月 3 日
『日経エンタテイメント ! No.222』日経 BP 社、2015 年 8 月 4 日
『オトメディアステミュ vol.01』Gakken、2015 年 8 月
『カンフェティ vol.129』2015 年 9 月
『ステージぴあ 21』ぴあ、2015 年 11+12 月号
『BEST STAGE Plus vol.001』音楽と人、2015 年 12 月 1 日
［映像・録音（DVD、CD）］
ネオロマンス♡ステージ「遥かなる時空の中で　朧草子」KDV-9010/1、コーエー、2009 年
ネオロマンス♡ステージ「金色のコルダ・ステラミュージカル」KEBH-9011、コーエーテクノウェーブ、2010 年
ミュージカル「黒執事　千の魂と堕ちた死神　The Most Beautiful DEATH in The World」MPEG-2、アニプレックス、2010 年 10 月 27 日
「VISUALIVE ペルソナ 4」MJBD-72042、株式会社マーベラス AQL、2012 年 7 月 12 日
「PERSONA3 the Weird Masquerade 〜青の覚醒〜」ANSB 3188、株式会社アニプレックス、2013 年
MUSICAL「AMNESIA」FFBS-0001、株式会社フロンティアワークス、2014 年 5 月 28 日
「MUSICAL AMNESIA　Vocal Collection」FFCS-1001、フロンティアワークス、2014 年 9 月 3 日
その他
［web 情報サイト］
2.5 次元ミュージカル協会 HP ほか本文中に表記。